



「若どり」

第4号

◎ からだをつくる ◎ 心をみがく ◎ わぎを練る

人権を考える夏休みに

副校長 河村 明彦

先日、話題になっていたある映画を観に行きました。「ゲッベルスと私」という映画です。第二次世界大戦の末期に当たる1942年から終戦に至るまでの3年間、ナチス・ドイツの宣伝大臣であったヨーゼフ・ゲッベルスの秘書として働いていたブルンヒルデ・ボムゼルという女性の独白インタビューを紹介したドキュメンタリー映画でした。

ナチス・ドイツとはアドルフ・ヒトラーの率いる国家社会主義ドイツ労働党が国家権力を握っていた時代のドイツ国の呼び方です。1933年から12年以上にわたってドイツ国内のみならずヨーロッパ全土にその勢力を拡大し、ヨーロッパの国々を武力で侵攻していきました。ドイツ民族による理想国家を拡大していく精神的な核になった考え方がナチズムと呼ばれ、それをドイツ民衆に蔓延させていくのにヨーゼフ・ゲッベルス国民啓蒙・宣伝大臣の役割は大きなものがありました。優れたドイツ民族の共同体を築くためにそれを邪魔する存在としてのユダヤ人像を作り上げました。これによってドイツの一般民衆はヒトラーを熱狂的に支持すると同時に、ユダヤ人は何百万人単位で財産を奪われ追放されたり、強制収容所に送られ虐殺されていきました。この行為は「ホロコースト」と言われ犠牲になったユダヤ人は少なくとも600万人以上とも言われています。

1945年、連合軍の勝利によりドイツは敗戦を迎え、ヒトラーを始めゲッベルスらの戦争犯罪やドイツ国民としての戦争責任については戦後から現代に及ぶまで問われ続けています。映画で登場したボムゼルは103歳でした。歴史的な戦争犯罪者の直ぐそばで秘書として働いていた彼女が、戦後ずっとホロコーストについて何も語らず、69年の沈黙を破って語り始めたのです。私はまずその年齢とその語り口に驚きました。何んとかくしゃくとした明晰な語り口なのだろう、と思ったのです。頬や額はしわがれていても瞳の奥は20代の女性秘書を感じさせました。そして彼女の独白はさらに私の中にある正義感から想定されるものとは全く異なっていたことに驚いたのです。「その頃人々は不用意に多くを背負い込みたくないと思っていた。」「自分の生活を守るだけで手一杯だった。」「全てのドイツ国民に咎があるというのなら、私も含めみなに罪があった。」「戦地に送られた兵士たちはみな人を撃つ

たけれど、だからといって彼らを殺人者とは言わない。私もそれと同じ。私が誰か個人に不当なことをして大きな苦痛を与えたというのなら、非難されてもしかたない。でもそんなことをした記憶は私にはいっさいない。」

彼女はドイツのごく一般的な家庭に生まれ第一次世界大戦後の世界恐慌に見舞われた時代に多くの家庭の例にもれず生活は楽ではなく、思春期は豊かさや職業的な成功を夢見て過ごしていました。ユダヤ人の迫害の潮流にもさして問題意識をもたず、自分のために一生懸命生き抜いてきたら、気がつけばゲッベルスのそばで働いていました。私はそのように時代に翻弄されて生き抜いてきた彼女に対して、罪あるなしを問う気持ちにはなれませんでした。涙一つ流すことなく語るボムゼルの中に、むしろ人間誰しももっている弱さや盲目的な頑固さを感じました。ボムゼルは2017年1月27日、106歳で亡くなりました。

私は二十代の頃1人でポーランドのアウシュビッツを訪れたことがあります。多くのユダヤ人の命を奪ったこの悪名高い捕虜収容所は多く手を加えられず今でも負の遺産として保存されています。ヨーロッパ各地から貨車に積まれた囚われた老若男女のユダヤ人たちがこの過酷な収容所で生活することを強いられました。収容所は殆ど家畜小屋のようでした。一度に多くを処刑できるシャワー室のような毒ガス室もありました。彼らが身に付けていたおびただしい数の衣類、靴、めがね、金歯、毛髪等は山積みになされたままになっていました。毛髪で織られた絨毯、金歯で作った金塊などがありました。人は人ではなく、物であったのです。

21世紀は「人権の世紀」と言われています。今や人権が空気のように当たり前のよう存在するような錯覚もあります。しかし、103歳まで生きて過去を語ったボムゼルを思うとき、「しょうがないさ」と人権から目をそらしたり無視したりする今の自分を疑ってみたいと思っています。これからの時代が過去と同じ轍を踏むことがないようにです。

長い夏休みが到来しました。夏休み中に終戦記念日を迎えますね。生徒の皆さんも戦争の時代を振り返り、広く人権の問題を考える機会であって欲しいと願っています。

2年生職場体験

働くことを体験させてもらい

いつも見ている街の風景が

違って見えました・・・

7月10日～12日の3日間、2年生は職場体験を行いました。マナー講習や事前訪問などを経てこの日のために職業について様々を学び、考え、準備してきました。職場の方々の親切なサポートをいただき緊張感をもって精一杯取り組みました。



交通局早稲田営業所



ペットショップ



西武鉄道上石神井駅



中野郵便局



龍の子保育室

今年度お世話になった事業所（28箇所）

- 1 聖ピオ保育園
- 2 田中ナーズリー保育園
- 3 龍の子保育室
- 4 鷺宮児童館
- 5 マクドナルド野方店
- 6 ジョナサン鷺宮店
- 7 セイジョー都立家政店
- 8 セブンイレブン都立家政店
- 9 ファミリーマート野方南店
- 10 ペットショップZOO
(渋谷店・新宿店・新大久保店)
- 11 OKストア中杉店
- 12 OKストア鷺宮店
- 13 西武鉄道上石神井駅
- 14 交通局早稲田営業所
- 15 鷺宮小学校
- 16 野方警察署
- 17 野方消防署
- 18 中野郵便局
- 19 鷺宮図書館
- 20 渋谷園芸練馬本店
- 21 アンミュール
- 22 コンモト洋菓子店
- 23 メンズサロン エクシア
- 24 ティップネス中野店
- 25 総合東京病院
- 26 中野八中主事室（ヤオキン）

ご協力いただいた事業所の皆様に心より感謝申し上げます。

八中ビブリオバトル開催

6月26日放課後。図書委員会主催によるビブリオバトルが今年も開かれました。ICT教室に多く生徒が集まり、6人のバトルのパフォーマンスを楽しんでいました。今回のチャンプ本は3年の高島嘉一郎くんが紹介してくれた「勇気凛々たる色」（浅田次郎著）でした。制限時間3分間での分かりやすく楽しいバトルの本の紹介に、会場に集ま



ビブリオバトルの会場の様子

ちみな興味深く聞き入っていました。6

人の紹介した本を是非とも手にとってみたいくなるようでした。バトルたちの伝える力の見事な技能に驚くとともに、八中生をととても誇らしく思えました。



東大寺の前で

2日目の京都では大雨警報が出てしまい、傘は必需品となってしまいました。河川の氾濫も報道され、安全を優先して行動することとしましたが、予定の班行動を大きく変更することもなく、傘をさしながらも雨の京都を十分楽しんでいました。

3日目も観光タクシーを使った京都市内の班行動でしたが、市内を中心に安全に各箇所を訪れることができました。

東京に帰る新幹線は、雨の影響で30分程度遅れてしまいました。でも、生徒らは3日間の楽しい思い出とお土産を手にして、皆無事に修学旅行を終えることができました。

修学旅行

7月4日（水）～6日（金）、3年生は奈良京都への修学旅行に出かけました。関西地方は梅雨前線の影響で初日から大雨の予報が出ていました。しかし、初日の奈良は晴天ではなくとも傘なしでも十分行動し楽しく学習を進めることができました。



雨の金閣寺の前で

第6回中学生科学コンテスト

八中から1チーム参加予定!

平成30年度第6回中学生科学コンテストに八中生が1チーム参加します。今年度、以下の1チームが結成され、8月26日(日曜日)都立立川国際中等教育学校を会場にして行われるコンテストに挑みます。八中では、2,3年前に出場チームの中から2年連続で実技部門優秀賞受賞チームを輩出しています。今回も健闘を祈ります。

出場者: 2年 成嶋 浩希くん、2年 奥澤 紀くん、2年 平野 陽也くん

部活動表彰 祝 都大会出場! 活躍を祈ります!!

卓球部

女子シングルス都大会出場権獲得 2年生1名

男子シングルス都大会出場権獲得 1年生1名

ソフトテニス部

男子団体戦 2年生 1名

3年生 7名

女子団体戦 2年生 1名

3年生 7名

9月予定

8月26日(日) 中学生科学コンテスト
13:00-立川国際中等教育学校

8月31日(金) 夏休み最終日
花火大会 20:00-21:00
(八中校庭)

9月 3日(月) 授業開始・全校集会
生活習慣病予防検診

9月12日(水) 前期期末考査1日目
(英語・国語・理科)

9月13日(木) 前期期末考査2日目
(社会・技家・数学)

9月14日(金) 前期期末考査3日目
(美術・音楽・保体)
※保体は1、2年のみ

9月15日(土) 土曜学校公開日
セーフティ教室
6年生児童対象学校説明会

9月21日(金) 生徒会役員選挙

9月25日(火) 第2回オープンキャンパス

9月27日(木) 中学校総合陸上競技大会
駒沢オリンピック陸上競技場

